

2022年07月12日

ウクライナ問題に関連する3つの資料

大西先生よりウクライナ問題に関する4つの資料提供を受けたので掲載します。

資料1 ケニア国連大使の国連安保理における発言(2022年2月21日)

我々は今夜、ウクライナにおける大規模な紛争の瀬戸際で会合する。

我々が2月17日に促した外交(S/PV.8968参照)は失敗している。ウクライナの領土と主権は侵害されたままである。国際連合憲章は、強者による容赦ない攻撃を受けて凋落し続けている。国際平和と安全保障と正反対の目的を追求するために、あるときは国際連合憲章に背を向ける国々が、あるときは敬愛の念をもって国際連合憲章を唱えている。

ウクライナ情勢に関する最近の2回の会合(S/PV.8960とS/PV.8968参照)で、ケニアはロシア連邦の軍拡を考慮して、外交に機会を与えるよう求めた。そしてさらに重要なことは、国際平和と安全、そして正義が損なわれないような方法で、国際紛争を平和的手段で解決するという憲章の要求が、大きく損なわれていることである。

今日、ウクライナの領土保全と政治的独立に対する武力による威嚇または行使が行われた。ケニアは、ロシア連邦がウクライナのドネツクとルハンスク地域を独立国家として承認すると発表したことに重大な懸念を抱いてい

る。我々の考えるところでは、その行動と発表はウクライナの領土保全に違反している。

我々は、これらの地域に深刻な安全保障上の懸念があることを否定するものではない。しかし、平和的解決策を提供できる複数の外交手段が利用可能であり、進行中であつたにもかかわらず、ドネツクとルハンスクを独立国として承認したことを正当化することはできない。

この状況は、我々自身の歴史と重なる。ケニアやほとんどすべてのアフリカの国々は、帝国の終焉によって誕生した。我々の国境は、我々自身が引いたものではない。それらは、ロンドン、パリ、リスボンといった遠く離れた植民地都市で、古代の国々に配慮することなく引かれたものである。

今日、アフリカのすべての国の国境を越えて、我々は歴史的、文化的、言語的に深い絆を共有する同胞が住んでいる。独立当時、もし我々が民族、人種、宗教の同質性に基づいて国家を追求することを選択していたら、この何十年後にも血生臭い戦争を繰り返していたことであろう。その代わりに、我々は、受け継いだ国境に落ち着きながらも、大陸、政治、経済、法律の統合を追求することに同意したのである。我々は、危険なノスタルジアで歴史を振り返るような国を作るのではなく、多くの国や民族の誰も知らなかった偉大なものに目を向けることを選択したのである。

我々は、アフリカ統一機構と国連憲章の規則に従うことを選んだが、それは国境で満足したからではなく、平和の中で築かれるより大きなものを求めていたからである。我々は、崩壊または後退した帝国から形成されたすべての国家には、近隣の国家の人々との統合を切望する多くの人々がいると信じている。それは正常なことであり、理解できる。結局のところ、同胞と一緒にになり、彼らと共通の目的を達成したいと思わない人はいないであろう。

しかし、ケニアは、そのような憧れを力づくで追求することを拒否している。我々は、新たな支配と抑圧に再び陥らない方法で、死んだ帝国の残り火からの回復を完了させなければならない。我々は、人種、民族、宗教、文化など、いかなる理由であれ、領土回復と拡張主義を拒否したのである。我々は、今日、再びそれを拒否する。

ケニアは、ドネツクとルハンスクの独立国家としての承認に強い懸念と反対を表明する。さらに我々は、安全保障理事会のメンバーを含む過去数十年の強力な国家による、国際法をほとんど顧みない違反の傾向を強く非難する。

多国間主義は今夜、その死の床にある。過去に他の強国によってなされたように、今日も強奪されたのである。我々はすべての加盟国に対し、事務総長の後ろ盾となって、多国間主義を守る基準に我々全員を結集させるよう要請する。また、関係者が平和的手段でこの状況を解決できるよう、事務総長がその善意を発揮することを求める。

最後に、ケニアが国際的に認められた国境内におけるウクライナの領土の完全性を尊重することを再確認して、結びとする。

(大西訳)

資料 2 南アフリカ国連大使の国連総会緊急特別会合における演説(2022年3月1日)

南アフリカは、ウクライナにおける紛争の激化を引き続き深く憂慮している。我々は、ウクライナとロシアの間で協議が開始されたことを歓迎する。

我々は、これらの協議が、持続可能な政治的解決につながる外交的解決につながることを希望する。

南アフリカは、この武力紛争が、他のすべての紛争と同様に、不必要な人間の苦痛と破壊をもたらし、世界的な影響を及ぼすという見解を持っている。紛争の状況下では、最も弱い立場の人々が、紛争中もその後も最も苦しむ傾向にある。

世界が COVID-19 の大流行の影響から抜け出そうと努力しているときに、世界の回復をさらに遅らせるような紛争に見舞われたことは遺憾である。グテーレス国連事務総長は、この紛争が「COVID-19 の大流行から脱却しつつあり、多くの途上国が復興のための余地を必要としている今、世界経済に大きな影響を与える」と述べ、そのことを思い知らされた。

国連は、第二次世界大戦の惨禍の後、戦争の災禍から後世の人々を救うことを目的に設立された。国際連合憲章が、すべての加盟国に対し、国際の平和、安全および正義が損なわれないような方法で、平和的手段によって紛争を解決することを義務づけているのは、このためである。

我々は、平和は国際連合を中心とするグローバルな対話のための機関の枠組みにおける外交と対話によって築かれるのが最善であることを強調する。すべての国が、国際人道法と国連憲章の規定を含む国際法の原則を尊重し守ることが重要である。

国連は創設から 76 年目を迎えたが、この 2 週間の出来事は、国連、特に国連安全保障理事会の改革が急務であることを改めて認識させるものであった。我々は、冷戦の遺産から解放された安保理を必要としている。そうすれば、紛争を解決し、より公正で平和な世界を構築するために、国家共同体が真に集う場となり得るからである。

南アフリカは、危機を回避し、紛争を緩和するために対話が持つ価値を常に高く評価している。これは、紛争の平和的解決に対する我々の強いコミットメントに沿うものである。この観点から、我々は安全保障理事会に対し、紛争の平和的解決を支援するために、既存の手段を自由に活用するよう求める。また、我々は、国連事務総長の斡旋が、この紛争の永続的な解決策を見出す上で積極的に貢献する可能性があり、活用されるべきだと考えている。

我々は、すべての当事者が、人権を擁護し、国際法および国際人道法の下での義務を遵守し、妥協の精神をもってこの状況に臨むことを強く求める。

この問題の外交的解決は、当事者の安全保障上の懸念に対処するものであるべきだ。

南アフリカは、ミンスク合意などの地域的イニシアチブを引き続き支持・奨励し、ノルマンジー・フォーマット、三者連絡グループ、欧州安全保障協力機構（OSCE）の活動を歓迎する。

今回の会合は、安全保障理事会が行動できない場合に総会を開催することを定めた「平和のための統一方式」の下で開催されているが、現状では安全保障理事会がその責任を十分に発揮することが必要であることに変わりはない。

ウクライナ情勢が、国際社会の他の優先事項や国連の他の活動に悪影響を及ぼすようなことがあってはならない。

さらに、すべての紛争状況が同じように注目されているわけではないことにも懸念を覚える。実際、ウクライナに注目が集まる一方で、安全保障理事会が把握している長期的な状況は、解決されないまま続いている。国連憲章と人権が侵害されている他の長年の紛争にも、同等の注意を払うことが必要である。

結論として、南アフリカは、アフリカ連合委員会が発表した、ウクライナの国境でアフリカ国民およびアフリカ系の人々に与えられている待遇に懸念を表明する声明を支持する。この中には国境を超えて安全な場所に移動することを許されない人々もいる。我々は、すべての人々が紛争時に国境を越える権利を有していることから、欧州諸国がこの状況を解決するための措置をとることを強く求める。

(大西訳)

資料 3 中国李克強首相のウクライナ情勢に関する記者会見における応答(2022年3月11日)より

ロイター社：

ロシアがウクライナに対して襲撃を発動して以来、すでに 200 万人の難民が生まれ出され、数百名の平民が死亡、人々は核情勢のエスカレートについても憂いている。しかし、中国はロシアの行為に対する非難、あるいはそれを「侵入」と称することを拒絶してきた。いかなる状況においても、中国がロシアに対して非難しないことを続けるのか。ロシアが制裁を受けている状況下、中国はロシアに対してさらなる経済的、金融的サポートを提供するつもりなのか。このような行為をすることで他国からネガティブな影響を受けることを心配するのか。

李克強：

私が先ほど述べたように、中国は昔から「独立自主な平和外交政策」を執っている。ウクライナ情勢について、中国は以下を主張する。各国の主権と領土の保全はともに尊重されるべきであり、国連憲章と原則はともに守られる

べき、各国の合理的な安全懸念も重視されるべきである。中国はこれをもって自分の判断を行い、国際社会と一緒に、平和に戻るためのポジティブな作用を発揮したい。

現在のウクライナ情勢は確かに懸念すべきである。最大限の努力を尽くしてウクライナ・ロシア双方は困難を突破し、停戦交渉を行うことを促し、平和の結果を導くべきである。危機の平和的な解決に有利ないかなる努力をもサポートし、勧める。当面の急務は、緊張した情勢のエスカレートを避け、さらにその制御不能を避けることである。この点について国際社会はコンセンサスを持っている。

中国は、最大限の自制の維持を呼びかける。大規模な人道主義的危機の出現を防ぐ。中国はすでに、ウクライナ情勢、とくに人道情勢についての提案をした。中国はすでにウクライナに対する人道主義的援助を始め、それを続けるつもりである。当面、世界経済はパンデミックの影響ですでに困難な状況にあり、関連の制裁は世界経済の回復に衝撃を与え、各方面にとっても不利である。中国は、世界の平和と安定の維持、発展と繁栄の促進に対して、独自の、建設的な努力を行いたい。

(游偉訳)